平成 20 年（2008 年）7 月 10 日

廃棄物学会ニュース
The Japan Society of Waste Management Experts
SINCE 1990

No.105
廃棄物学会

第10期会長就任挨拶

第 10 期廃棄物学会会長　山本　和夫
（東京大学　環境安全研究センター　教授）

廃棄物学会第１０期会長を拝命いたしました。

今期、廃棄物学会は法人化という節目を迎えます。武田前会長の下、前期理事会で具体的方針を固め、平成２０年度総会で新法人の定款を承認していただきました。今期理事会は、その決定事項を粛々と実現させることが最大のミッションであります。

学会の名称も、廃棄物資源循環学会になる予定です。これは、前期において、法人化・将来構想検討会での検討をもとに理事会で議論を重ね、さきの総会で暫定的に承認していただいたものです。まず一般社団法人として登録しますが、その時までに、「廃棄物資源循環学会」か「廃棄物・資源循環学会」か、そのどちらにするかを正式に決定いたします。同時に学会の英語名称も確定させます。この件は、今期理事会に一任されておりますが、今後の理事会の議論に反映させるべく、会員の皆様方からも忌憚のないご意見をいただければと存じます。

今期の重要性に鑑み、執行部体制も酒井副会長（企画運営、学術研究担当）、貴田副会長（編集担当、編集委員会委員長兼務）、松藤（康）副会長（国際担当、国際委員会委員長兼務）との共同執行体制で臨みます。また、西垣企画運営委員会委員長、松藤（敏）学術研究委員会委員長とともに、学会の定常的委員会活動のさらなる活性化を図っていきます。

当学会だけの問題ではありませんが、会員の減少にともなう財政の逼迫化は、前期からの懸案事項です。今期においては、より実効性のある財政健全化・会員増強方策等を検討するため、執行部・各委員会・支部間の連絡を密にする連絡会議を立ち上げます。また、前期に引き続き法人化・将来構想推進会議で、秒読みに入りました法人化の具体化のための検討を行っていきます。

会長として出来ることは限られていますが、執行部、理事会、評議員会、事務局、そして会員の皆様とともに、法人化を実現し、新しい学会の誕生に立ち会いたいと存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、澤地前法人化・将来構想検討会長を中心にして、若手の学会員の参加を得てとりまとめた「目指すべき学会」の将来像としての学会の使命と特徴をここに再掲します。

＜学会の将来像＞

「学会の使命」

物質循環と廃棄物管理に関する学の体系化を進め、学術的立場から社会の先導的役割を担い、循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献する。

「学会の特徴」

１．学術的な立場から社会に向けて積極的に情報発信・問題提起・提言を行い、循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献する。

２．社会との密接なコミュニケーションに基づき、多様な主体の参加と幅広い学術的基盤の上に実学を指向する総合学会として社会に貢献する。

３．国際的な学術的連携の中で、学術的コミュニティー間のパートナーシップを構築し、相互の学問の発展を通して循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献する。

会員の皆様方にはさらなるご意見を出していただきながら、まずは上記将来像を法人化後の学会で構築するための地ならしをしていきたいと存じます。この点でも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

◆総会で挨拶する山本新会長

平成20年度廃棄物学会総会開催報告

ー法人化案件とともに、新名称「廃棄物資源循環学会」を承認ー

平成 20 年度廃棄物学会総会は、平成 20 年 6 月 11 日に学士会館において、正会員 75 名の出席と 671 名の委任状をあわせ、会則第 25 条第 1 項に定める定員 722 名（正会員の 4 分の 1 以上）を超える出席を得て開催された。

まず、病気加療中の武田会長に代わって、井手副会長が壇上に立ち、「会員の減少が続き苦しい運営を強いられている。本総会は長年の懸案であった法人化に向けた取り組みを、学会の呼称も含め決議する記念すべき総会である。物質循環と廃棄物管理に関する学の体系化を進める、開かれた学会としていきたい。あわせて会員の活躍に感謝する」との、会長挨拶を代読した。

引き続き、出席者から議長として河端博昭氏が、また議事録署名人に北村幸夫氏および竹田充氏が選出され、議事に入った。

まず、井手企画運営委員長から第 1 号議案「平成 19 年度事業報告」、第 2 号議案「平成 19 年度収支決算報告」が報告されたあと、伴野監事から「監査報告」が行われ、審議の後、全会一致で承認された。さらに第 3 号議案「平成 20 年度事業計画（案）」、第 4 号議案「平成 20 年度収支予算（案）」がそれぞれ審議され、全会一致で承認された。

引き続き、第 5 号議案の花嶋正孝氏の名誉会員への推薦と、第 6 号議案「廃棄物学会の法人化の件」が承認された。第 6 号議案では、廃棄物学会の名称を「廃棄物資源循環学会」とすること、および定款内容について、質疑応答が行なわれた。

第 7 号議案「第 10 期役員選任」の承認の後、新理事会開催のため一旦休憩に入った。約 10 分後再開され、和田理事から第 8 号議案「理事会推薦理事の選任」についての提案説明があり、片柳健一氏、坂本弘道氏、崎田裕子氏、峠和夫氏が理事に選任された。引き続き、同理事会において、第10期新会長として山本和夫氏が、また会長指名により副会長として貴田晶子氏、酒井伸一氏、松藤康司氏が選任されたことが報告され、出席者から大きな拍手が送られた。

◆会長メッセージを代読する井手副会長

閉会にあたって、山本新会長から「財政適正化、会員増強、国際協調を計りつつ、法人化に向けた取り組みを確実に行い、一般社団法人廃棄物資源循環学会への移行をスムーズに行ないたい」との挨拶があり、総会議事はすべて終了した。

（企画運営委員会　西垣　正秀）

一般社団法人廃棄物資源循環学会定款

（名　称）
第１条　この学会は、一般社団法人廃棄物資源循環学会という。
（事務所）
第２条　この学会は、主たる事務所を東京都港区芝五丁目１番９号に置く。
２　この学会は、理事会の議決を経て、必要な地に支部を置くことができる。
（目　的）
第３条　この学会は、物質循環と廃棄物管理に関する学の体系化を進め、学術的立場から社会の先導的役割を担い、循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献し、もって我が国の学術の発展に寄与する。
（事　業）
第４条　この学会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
（１）研究会、学術講演会等の開催
（２）学会誌、学術図書等の刊行
（３）研究および調査の実施
（４）研究の奨励および研究業績の表彰
（５）関連学術団体との連絡および協力
（６）国際的な研究協力の推進
（７）研究および調査の受託
（８）その他目的を達成するために必要な事業
：
（以下省略）
：

◆定款の全文及び、現会則との比較表は、学会ホームページに掲載しています（http://jswme.gr.jp/hojin/）。

第 10 期廃棄物学会役員名簿（敬称略）

会　長	山本	和夫	東京大学	理　事	峠	和男	(株)大林組
副会長	貴田	晶子	(独)国立環境研究所	〃	中村	一夫	京都市
〃	酒井	伸一	京都大学	〃	西垣	正秀	(株)タクマ
〃	松藤	康司	福岡大学	〃	樋口壯太郎		福岡大学
理　事	有田	耕二	JFE 環境ソリューションズ(株)	〃	古市	徹	北海道大学
〃	長田	守弘	(株)新日鉄エンジニアリング	〃	松藤	敏彦	北海道大学
〃	片柳	健一	(株)環境管理センター	〃	山田	正人	(独)国立環境研究所
〃	川本	克也	(独)国立環境研究所	〃	山本	攻	大阪市立環境科学研究所
〃	坂本	弘道	(社)日本水道工業団体連合会	〃	和田	安彦	関西大学
〃	崎田	裕子	環境カウンセラー	監　事	伴野	茂	鹿島建設(株)
〃	島岡	隆行	九州大学	〃	八木	美雄	(財)廃棄物研究財団

平成19年度廃棄物学会賞表彰式を開催

平成 20 年度廃棄物総会に引き続いて、平成 19 年度廃棄物学会賞表彰式が行われ、3 件の功績賞、1 件の有功賞、1 件の論文賞、3 件の著作賞、2 件の奨励賞が贈られた。

功績賞は、学会創設以来多大な貢献のあった占部武生氏、中杉修身氏、中西正義氏の 3 氏に贈られた。有功賞は、処分場の埋立開始から閉鎖までを対象とした「産業廃棄物最終処分場維持管理マニュアル」を体系的にまとめた(社)全国産業廃棄物連合会最終処分部会に贈られた。論文賞は、平井康宏氏、酒井伸一氏の「使用済み自動車用鉛バッテリーのフロー推定」（廃棄物学会論文誌第 17 巻第 6 号掲載）が高い評価を受けて選ばれた。

著作賞には、(財)廃棄物研究財団廃棄物対応技術検討懇話会編（編集委員長武田信生氏）「日中英廃棄物用語辞典」、田中勝氏、松藤敏彦氏、角田芳忠氏、石坂薫氏の「循環型社会評価手法の基礎知識」、和田安彦氏、三浦浩之氏の「環境に配慮したい気持ちと行動ーエゴから本当のエコへー」が選ばれた。

奨励賞は、橋本征二氏と石井一英氏に贈られた。橋本氏については、廃棄物処理施設の LCA 評価手法、廃棄物処理事業への環境会計の提案、物質ストックの推計等に関する一連の研究活動が高く評価された。石井氏については、廃棄物の処理・リサイクル・処分に係る技術・システムおよび土壌・地下水汚染の診断修復システムの開発並びにそれらの現場への適用などで優れた研究成果が高く評価された。受賞者には，井手副会長より表彰状と記念品が授与された。なお、受賞者記念講演は、本年 11 月 19 日から京都市で開催される第 19 回廃棄物学会研究発表会において予定されている。　　（企画運営委員会　押方　利郎）

平成 19 年度　廃棄物学会各賞受賞者（敬称略）

功績賞	・占部武生（龍谷大学）
	・中杉修身（上智大学）
	・中西正義（廃棄物学会）
有功賞	・(社)全国産業廃棄物連合会最終処分部会
論文賞	・平井康宏（京都大学）
	酒井伸一（京都大学）
著作賞	・(財)廃棄物研究財団廃棄物対応技術検討懇話会
	武田信生（立命館大学）
	・田中　勝（岡山大学）
	松藤敏彦（北海道大学）
	角田芳忠（(株)タクマ）
	石坂　薫（岡山大学）
	・和田安彦（関西大学）
	三浦浩之（広島修道大学）
奨励賞	・橋本征二（(独)国立環境研究所）
	石井一英（北海道大学）

平成20年度廃棄物学会研究討論会開催報告

6 月 11 日(水)、12 日(木)の 2 日間にわたり、学士会館において平成 20 年度研究討論会が開催された。

今年度のテーマは①アスベスト廃棄物処理に係る光学顕微鏡と電子顕微鏡の測定法の共通化について、②バイオマス利用はどのような資源と廃棄物を生むのか？再点検、③循環型社会形成推進基本計画の見直しを受けて、④循環型共生社会のための廃棄物管理システムの広域化、⑤社会システムとして持続可能な最終処分：高規格最終処分とは、の 5 件であった。このうち①②④⑤が研究部会による企画、③が学術研究委員会による企画である。1 日目午前の①②はパラレル、その他はプレナリとして開催された。

新たな企画として、研究討論会をこれまで以上に参加型の行事とするために、「討論するポスター」を眼目としたポスターセッションが導入された。研究部会の活動紹介、研究部会からの提言を含めて、約 30 件のポスターが発表された。意見交換会の時間もポスターを掲出して、打ち解けた雰囲気での討論も行われた。

研究討論会への参加者数は約 200 名であった。魅力的な企画を準備するのはもちろんこと、広報活動についてもより組織的に行っていく必要性を改めて感じた。

最後に、準備運営に携わった方々、また、討論会にご出席くださったすべての皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

（学術研究委員会　近藤　康之）

◆意見交換会

◆ポスター発表会場

シンポジウム「循環型社会形成推進基本計画の見直しを受けて」

平成 20 年 7 月に開催される洞爺湖サミットを直前に控え，平成 20 年 3 月に閣議決定された第 2 次循環型社会形成推進基本計画の新たな内容を基盤に，循環型社会構築のビジョンと道筋に関して議論を行なった。シンポジウムでは､5 名の方々から､講演をしていただき、その後パネルディスカッションを進めた。論点は大きく分けて、循環に関わる指標、リデュース対策、国際資源循環の 3 点であった。

指標に関しては、最終処分量を第 1 次計画期間で大きく減らせたこと、それには、循環利用率が直接的に関係したことが、産業界の自主行動計画との関係で説明された。資源生産性については、リサイクルで改善できる側面とともに、消費スタイルや産業のあり方との関係が大きいとの重要な指摘があった。リデュース対策に関しては、第 2 次計画で、政策的に重視したとの報告があった。その中でレジ袋削減は、リデュース展開の象徴的存在であり、ごみ減量への重要なきっかけとなることに合意がなされた。そして、国際資源循環に関しては、水際対策の重要性や地域間のトレース性などについても議論が交わされた。

講演題目と演者は以下の通りである。

- 『循環型社会形成推進と資源循環』新しい循環レジーム形成の必要性
  慶應義塾大学経済学部教授 細田 衛士氏
- 第 2 次循環基本計画における指標・目標の拡充
  国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター長 森口 祐一氏
- 循環型社会形成推進基本計画の見直しを受けて、産業界・建設業の取り組み
  マサチューセッツ工科大学客員教授 庄子 幹雄氏
- 持続可能な循環型社会の実現と地域循環圏の展望
  ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子氏
- 第 2 次循環型社会形成推進基本計画について
  環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長 由田 秀人氏

（学術研究委員会　酒井　伸一）

■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■　国際委員会　□■

平成 20 年 5 月 8 日～10 日

韓国廃棄物学会2008年春季学術研究発表会参加報告

平成 20 年 5 月 8 日～10 日、韓国順天市（Sunchon）の順天国立大学校（Sunchon National University）にて、韓国廃棄物学会 2008 年春季学術研究発表会が開催された。発表会の韓日共同国際セッションにて、韓日特別シンポジウムとポスターセッションが行われ、日本からは、井手副会長、松藤国際委員長をはじめとして、福岡大学、北海道大学、東京大学、九州大学、国立環境研究所などの研究者らが多数参加した。

特別シンポジウムのテーマは「韓日 CDM の現状と技術展望」であり、日本からは国立環境研究所の山田正人氏が、「アジアにおける CDM プロジェクトへの IPCC ガイドラインの適用」を、龍谷大学の石垣智基氏が「廃棄物処理と温室効果ガス排出（いかに相互利益を達成するか）」を発表した。韓国からは Kyoung-Sik Choi 氏が「韓国における CDM マーケットと炭素マーケットの発展状況」を、Seung-Do Kim 氏が「埋立においていかに CDM プロジェクトを効果的に扱えるか」を、Lae-Bong Han 氏が「Sudokwon 埋立地における排出ガス CDM プロジェクト」を発表した。これらの発表にもとづいて、温室効果ガスであるメタンの廃棄物埋立地からの排出に CDM プロジェクトをいかに適用するかが議論された。

また、ポスターセッションでは、日本から 16 編、韓国から 8 編、計 24 編のポスターが発表された。

さらに、日韓の廃棄物学会関係者の間で、「廃プラ・古紙の処理と燃料化（仮題）」を、今年の日本廃棄物学会研究発表会のシンポジウムのテーマとして決定した。

（国際委員会　鈴木　明郎）

■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■　中国四国支部　□■

平成 20 年 5 月 16 日

講演会「これからの環境研究を考える」開催報告

平成 20 年 5 月 16 日（金）、広島工業大学広島校舎（広島市）において、大気環境学会・日本水環境学会・廃棄物学会の中国四国支部三学会合同講演会が開催された。約 70 名が参加する中、「これからの環境研究を考える」をテーマに各分野から 1 名ずつ講師を招き、幅広い視点からの話題提供があった。

まず、水環境分野からは「水環境分野におけるこれからの課題～民間企業の立場から～」と題して、いであ株式会社の伊藤光明氏から流域における政策・制度や水利用、モニタリングに関する課題と提言、化学物質の環境リスク管理、途上国への環境対策技術移転、温暖化に伴う生態系変化について講演があった。次に、廃棄物分野からは「循環型社会における適正処理」と題して、国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センターの山田正人氏から最終処分技術の限界と新技術システムの方向性、廃棄物ストリームデータベースの構築、環境容量型経済へ向けての提言など、幅広い領域にわたって興味深いお話があった。最後に、大気環境分野からは国立環境研究所社会環境システム研究領域の小林伸治氏が「自動車による大気汚染や CO_2 問題に関係した今後の研究展開」と題して、大気環境の現状、国立環境研究所における都市大気研究の概要、自動車排出ガス規制とその効果について、講演された。さらに最近の研究テーマから自動車起因の NOx、PM 排出特性、ナノ粒子の大気動態、交通部門からの CO_2 削減対策についても言及された。講演会終了後の懇親会にも各学会から多数の参加者があり、お互いに交流を深めるよい機会となった。

（中国四国支部　樋口　隆哉）

【お知らせ】

第４回アジア太平洋廃棄物専門家会議及び公開セミナーのお知らせ

日時：2008 年 7 月 16 日（水）～18 日（金）
場所：JICA 横浜
（〒231-0001　神奈川県横浜市中区新港 2-3-1）
主催：第 4 回アジア太平洋廃棄物専門家会議実行委員会
（廃棄物学会、横浜市、(財)廃棄物研究財団、
(財)地球環境戦略研究機関（IGES）、他）
連絡先：実行委員会事務局
地球環境戦略研究機関（IGES）
プログラム・マネージメント・オフィス
TEL：046-855-3866　FAX：046-855-3809
Email：expert-meeting@iges.or.jp
プログラム内容等は下記 Web Site をご参照下さい。
（URL：http://www.iges.or.jp/jp/news/event/080717waste/ index.html）

第５回アジア太平洋埋立国際会議（APLAS 札幌 2008）Early Registration 期間延長のお知らせ（7 月 31 日まで）

日時：2008 年 10 月 22 日（水）～24 日（金）
場所：京王プラザホテル札幌（札幌市中央区）
主催：アジア太平洋埋立国際会議札幌 2008 実行委員会
（札幌市，廃棄物学会，NPO・LS 研究協会）
概要：発表件数約 170 件（28 カ国、海外約 90 件）
国内外関連企業や研究会の展示(36 ブース)
エクスカーション（札幌市内、洞爺湖）

廃棄物管理全般の埋立だけではない幅広い研究成果報告が、アジア太平洋諸国を始め世界 28 カ国から発信されます（日英同時通訳有）。この会議への参加登録料は 7 月 31 日まで割り引かれますので、皆様の早期の事前参加登録を是非ともお願いします。
（URL：http://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/aplas/）

8 月 13 日（水）～17 日（日）は、夏休みのため、事務局は不在となります。

会　員　状　況	H20.5.31 現在 (　)内は、H20.4.1 以降の増減
正 会 員	2,889　(-64)
学生会員	260　(+1)
外国人会員（DM）	24　(+5)
登録団体市民会員	5　(±0)
公益会員	99　(±0)
賛助会員	136　(-6)
計	3,413　(-64)

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.105　平成 20 年 7 月 10 日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
印刷媒体は古紙を配合した再生紙を使用しています

＜JSWME Newsletter No.65 (July)＞

英文ニューズレター第 65 号が発行されます。
（主要目次）
法制度改正の動向等：家電リサイクル法改正動向
廃棄物技術動向　　：日本における RDF の動向
廃棄物学会活動　　：韓国廃棄物学会韓日シンポ報告
※JSWME Newsletter は電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会ホームページから入手できます。

==========
Contents of JSWME NL No.65
==========

1 Greeting from New JSWME President, Prof. Yamamoto
2 The Home Appliance Recycling Law: A review and future outlook
3 Follow up Program for the Action Plan of JICA Training Course
4 Report from the Korea Society of Waste Management Spring Conference
5 Cartoons by High Moon: “Environmental Education for the 3Rs”

☆☆事務局だより☆☆

廃棄物学会の総会が終わり、これからは一般社団法人の「廃棄物資源循環学会」として新たな活動を進めることが決まりました。平成元年 3 月の創立時から関わっていた者の一人として、「廃棄物学会」という名称には深い愛着があります。設立総会と同じ学士会館で開催された今回の総会に参加している時、思いがけず 19 年前の設立総会のシーンがよみがえってきました。

全く同じ会場のひな壇に、多くの先生方が着席され、国立公衆衛生院の田中勝廃棄物工学室長の司会により、開会が宣言され、次々と議事が進行し、会長に平山直道先生が選出されました。専門の異なる人々が境界を越えて協力することの難しさを乗り越えて、廃棄物学会がようやく船出したことが思い出されます。

今、世界は、気候変動などの地球環境問題対策に向かって、新たな一歩を踏み出すべき時期を迎えており、この問題解決に向けた具体的な対策の確立に、多くの人々の期待が寄せられています。循環型社会の世界的な構築は、新学会の貢献すべき重要な課題です。その中で、アジア太平洋各地域の廃棄物分野専門家等の関係者の連携と協力が進むことを目指して、第 4 回アジア太平洋廃棄物専門家会議が 7 月 16 日より横浜で開催されます。学会の新しい船出に際しては、我々関係者の更なる連携と協力が不可欠です。社会に貢献する誇り高き学会となるよう皆で協力していきたいものです。　（松村治夫）

※学会ニュース掲載のお知らせをメールニュースで配信しています。学会ホームページから配信先アドレスを登録してください。（費用は無料です）

次号（学会ニュース No.106）は 9 月 5 日発行予定です。
※学会ニュースはホームページに掲載しています。印刷版の郵送が不要になった場合には、事務局までご連絡ください。